2009.10.21.

平成21年度　学術情報リテラシー教育担当者研修（大阪大学）

教員と図書館員の連携による学術情報リテラシー教育

三重大学　高等教育創造開発センター
長澤　多代

本日の発表内容

1. 大学教育の質保証と大学図書館
2. 教員と連携した学生の学習活動の支援（学習支援）
3. 図書館員による教員へのアプローチ
4. 図書館員による教員の教育活動の支援（教育支援）
5. 今後の課題

1. 大学における教育の質保証①

教育改革が必要になった背景

- 知識基盤社会の到来
- 学習成果を重視する国際的な動向
- 18歳人口の急激な減少
- 大学数の増加

知識基盤社会：
新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会

1. 大学における教育の質保証②

「三つの方針」の明示

①学位授与の方針　（ディプロマ・ポリシー，DP）

②教育課程編成・実施の方針

（カリキュラム・ポリシー，CP）

③入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー，AP）

何を教えたか

→学生が何を修得したか（学習成果）

→外部評価への対応，説明責任への対応

1. 大学における教育の質的保証③

「三つの方針」にもとづく組織的な教育活動のために，各大学の教職員が各大学の方針を理解して実践に取り組むことが期待されている。

実践の支援：

教員開発（ファカルティ・ディベロップメント：FD)

職員開発（スタッフ・ディベロップメント：SD）

1. 大学における教育の質保証④

単位制度の趣旨

「学生がいかなる授業科目を選択しようとも，授業時間数を基礎に算出した単位数が同じであれば，学習内容・成果も同程度に評価する」

1単位

＝**標準45時間の教室内外の学習**を要する教育内容

1単位あたりの教室内の学習時間

講義・演習	15～30時間の範囲
実験・実技・実習等	30～45時間の範囲

1. 大学における教育の質保証⑤

単位の実質化
＝教育方法の改善にとって重要な課題

「現在の単位制度は，教室における授業と事前・事後の準備学習・復習を合わせて単位を授与するものであり，学生の自主的な学習が求められる。このため，教室における授業だけでなく，授業の前提として読んでおくべき文献を指示するなど学生が事前に行う準備学習・復習についても指示を与えることが教員の務めである。」

「教室外における学習を徹底させ，学生が主体的な学習に十分取り組むことができるようにするためには，指導を担当する個々の教員の努力に加え，図書館の座席数や必読図書の所要冊数の確保，開館時間や開館日，貸出期間など施設・設備利用の面を含め，学生が学習する場としての大学の学習環境の整備にもこれまで以上に留意する必要がある。」

（大学審議会答申，1998）

1. 大学における教育の質保証⑥

1単位は①と②の合計で標準45時間の学修を要する学習内容

① 教員が教室等で授業を行う時間

② 学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間

1単位＝標準45時間の根拠

8時間×5日（月～金曜日）＋5時間（土曜日）

45時間＝1週間の学習時間に相当

1. 大学における教育の質保証⑦

◆文部省の調査（1995年）

1週間の学習時間

	授業への出席時間	その他の学習時間	合計
全体	19.3時間	7.2時間	26.5時間
自然科学系	22.3時間	7.9時間	30.2時間
社会科学系	15.8時間	6.0時間	21.8時間

◆内閣府の調査（2001年）

「普段，学校以外で1日に何時間勉強しているか」

ほとんどしていない（47.5%）

約30分（12.2%），約1時間（19.3%）

1. 大学における教育の質保証⑧

◆総務省の調査（2006年）

1日あたりの平均学習時間（土日を含む，平日のみ）

	小学校	中学校	高校	短大・高専	大学・大学院
学業の時間＋学業以外の学修時間	5時間17分 6時間55分	6時間30分 8時間4分	6時間23分 7時間42分	4時間59分 6時間14分	4時間4分 5時間1分
うち，学業の時間	4時間41分 6時間19分	5時間35分 7時間10分	5時間27分 6時間45分	4時間27分 5時間41分	3時間30分 4時間28分

1. 大学における教育の質保証⑨

単位を実質化させるために

<u>大学教員の役割</u>

・授業外学習（予習，復習，課題）について，
　シラバスによって十分な指示を与える

<u>大学の役割</u>

・履修制度の上限を設定する（キャップ制）

・成績評価を厳格化する　e.g.　GPA

・授業外の学習環境（図書館などの物理的環境，
　eラーニングなどの仮想的環境）を整備する

1. 大学における教育の質保証⑩

大学図書館の役割

学習成果の向上

初年次教育科目における図書館ガイダンス
学科関連の情報利用指導

授業外（教室外）の学習時間を確保するための学習支援環境の整備

ラーニング・コモンズ

FD（ﾌｧｶﾙﾃｨ・ﾃﾞｨﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ）等による教員の支援

FDワークショップなどの教育支援

SD（ｽﾀｯﾌ・ﾃﾞｨﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ）等による専門性の向上

求められる専門能力の検討と資質開発

2. 教員と連携した学習支援①

主な到達目標

- 学生が，図書館が自分たちの学習活動を支援する機関であることを認識する。
- 学生が，情報を利用するプロセス（情報探索，情報整理，情報表現）の全体像を理解する。
- 学生が，情報を探索するのに有用な道具（目録やデータベースなど）を理解し，利用できる。

2. 教員と連携した学習支援②

主な方法

指定図書制度

学生用図書の推薦

レファレンス・サービス

パス・ファインダー

学科関連の情報探索法指導

学科関連のレポート作成法指導

情報利用指導に関する科目（初年次教育，専門教育）

2. 教員と連携した学習支援③:
アーラム・カレッジにおける学科関連の情報利用指導

実施の手順

① 図書館員が，学期の始まる2-3週間前に，講義要綱から支援対象とする科目を抽出する。

② 図書館員が，①の担当教員に，図書館員による支援の必要性を確認し，実施日を決定する。

③ 図書館員は，科目のシラバスを読み，課題のテーマに関する一次資料や二次資料，データベースを検討してパスファインダーを作成し，Web上で公開する。

④ 指導当日には，図書館員が，パスファインダーを示しながら，二次資料やデータベースを用いた情報の探索法，情報の入手法について説明する。

2. 教員と連携した学習支援④:
アーラム・カレッジにおける学科関連の情報利用指導

実施の要点

- 課題探求型の課題（research assignments）を課す科目を重点的に支援する。
- 「教える好機（teachable moment＝テーマを設定した直後）」に学習支援を実施する。
- 一般的なテーマではなく，科目で与えられた課題のテーマに関する学習支援を実施する。
- 専門分野ごとに担当者を決める。

3.図書館員による教員へのアプローチ①

図書館員の役割

大学における教育活動を支援する“ファシリテーター”となる。
所属する機関の学生や教員のニーズを予測した上で，教員に連携をはたらきかける“事前対策的なアプローチ”をとる。

教員との関係性を考慮して，効果的にアプローチする

第1段階　関係性がほとんど確立していない
第2段階　関係性が一部で確立している
第3段階　関係性が多くの場において確立している

3.図書館員による教員へのアプローチ②

有効だと考えられる主な段階	1	2	3
①教員に学習支援の案内をするときには，“**顔見知りの教員**”から個別に呼びかける 。	○	○	
②“**教育改善（活動）に高い関心をもつ教員**”に呼びかける。	○	○	
③“**まずはひとりの教員が満足すること**”を目指して学習支援を実施する。	○		
④“**課題探求型の課題**”（レポートや口頭発表）を与える科目を支援する。	○	○	○
⑤科目の学習到達目標や課題のテーマなど“**個別性に対応**”した学習支援を実施する。	○	○	○

3.図書館員による教員へのアプローチ③

有効だと考えられる主な段階	1	2	3
⑥ 学習の効果が最も高いと言われる“教える好機”に学習支援を実施する。	○	○	○
⑦ 各図書館員が“担当する教員を特定”する。	○	○	○
⑧ 学習支援の存在やその有効性について，“教員が他の教員に紹介する”機会を設ける。		○	○
⑨ 教員の教育活動を直接的に支援する“教育支援”を実施する。		○	○
⑩ “大学や学内の学習・教育支援組織が計画するプログラム”の一部に教育支援を組み入れる。		○	○
⑪ “面倒くさいという印象”を与えない。	○	○	○

3.図書館員による教員へのアプローチ④

主な取り組む段階	1	2	3
⑫ 学習・教育支援の利用を“強制しない”。	○	○	○
⑬ 大学の教育活動に関する情報を得るために，“大学の教務事項を検討する委員会に列席する”。		○	○
⑭ “大学の教育活動の動向に対応”した“多様な学習・教育支援プログラム”を提供する。		○	○
⑮ 図書館員が，“図書館外において広く活動する”（学内講師，委員会の委員など）。			○
⑯ “インフォーマル”な場で，教員と交流する機会をもつ。（食堂，交流会，食事会など）	○	○	○

4. 図書館員による教育支援①

主な到達目標

- 教員が，課題探求のプロセスにおける情報利用の注意点と対策について理解する。
- 教員が，課題探求型の課題を支援する教材を作成できるようになる。
- 教員が，自身の情報リテラシーを向上させる。

主な方法

ニューズレター，レファレンス・サービス，
ワークショップ，コンサルティング

4. 図書館員による教育支援②

新任教員への図書館サービス案内状の送付（アーラム・カレッジ）	
内容	着任が決まった教員に**図書館のサービスを紹介した手紙**を送付する。 授業で必要な文献があればいつでも購入できること，図書館がいつでも支援できることを伝える。
新任教員オリエンテーション（三重大学，長崎大学）	
内容	新任教員オリエンテーションの一環として，**「図書館の利用法」についてガイダンス**をする。 短時間で，附属図書館がいかに学生の学習活動や教員の教育活動を支援できるのかを伝える。 附属図書館のアピール・ポイント（例として，コレクション，建物やスペース，歴史など）を伝えるのもよい。

4. 図書館員による教育支援③

教育改善ワークショップ（アーラム・カレッジ）	
説明	1日規模のワークショップによって，教員と図書館員がレポート課題など課題探求型の課題の設定や指導方法について検討する。
目的	•教員が情報資源や課題探求型の課題について理解を深める。 •教員と図書館員，教員同士が情報交換をする機会を設ける。
内容	•新しい情報資源と新しい課題 •研究プロセスの指導 •特定の分野の情報探索法 •剽窃（ひょうせつ）

4. 図書館員による教育支援④

FDワークショップ（長崎大学）	
説明	2時間のワークショップによって，図書館員が教員にパス・ファインダーの構成と多様なデータベースを説明し，これをもとに教員がパス・ファインダーを作成する。
目的	•教員が，学生の情報探索を支援するツールとしてパスファインダーの存在を知る。 •教員が，パスファインダーの役割や構成，情報探索の道具について理解を深める。 •教員と図書館員が顔を合わせる機会を設ける。
内容	パスファインダーの説明と演習 各種データベースの説明

5. 今後の課題

- 大学教育における教員と図書館員の連携
- 教員の図書館（員）観への対応

  図書館　＝×本のある場所，〇学習・教育支援機関

  図書館員＝×事務員，〇情報探索の専門職員
- 大学教育センターとの連携

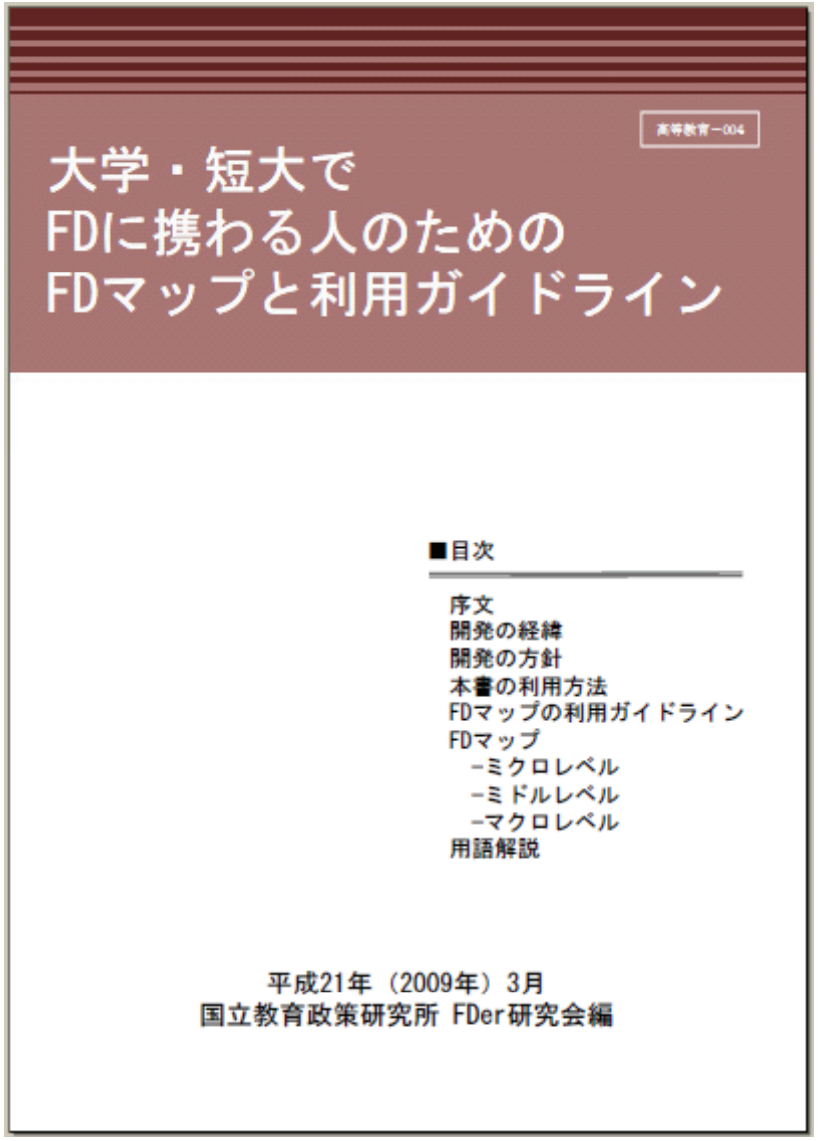
  FD担当者による仲介，FD担当者と図書館員の協働
- 各大学／専門家団体における図書館員の資質開発

主な参考文献

- 中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて』（答申）2008.12.24.
- 大学教育審議会『21世紀の大学像と今後の改革方策について：競争的環境の中で個性が輝く大学』（答申）1998.10.26.
- 長崎大学附属図書館：FDワークショップ

  http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/use/guidance/fd.html
- 長澤多代「アーラム・カレッジの図書館が実施する学習・教育支援に関するケース・スタディ」『Library and Information Science』No.57, 2007, p.33-50.
- 長澤多代「大学図書館の教員へのアプローチ：長崎大学ファカルティ・ディベロップメントの試み」『平成18年度　第92回岡山大会全国図書館大会記録』p.85-86.

付録：FDマップの利用ガイドライン


高等教育－004

大学・短大で
FDに携わる人のための
FDマップと利用ガイドライン

■目次

序文
開発の経緯
開発の方針
本書の利用方法
FDマップの利用ガイドライン
FDマップ
－ミクロレベル
－ミドルレベル
－マクロレベル
用語解説

平成21年（2009年）3月
国立教育政策研究所 FDer研究会編

＜主な内容＞

- FDマップの利用ガイドライン
- FDマップ
  - ミクロレベル
  - ミドルレベル
  - マクロレベル
- 用語解説

付録：FDマップの全体像

横軸（レベル）：FDを実施する対象
縦軸（フェーズ）：FDを実施する対象者の段階

レベル／フェーズ	ミクロ 個々の教員 授業・教授法			ミドル 教務委員 カリキュラム・プログラム			マクロ 管理者 組織の教育環境・教育制度		
	目標	方法	評価	目標	方法	評価	目標	方法	評価
Ⅰ.導入（気づく・わかる）									
Ⅱ.基本（実践できる）									
Ⅲ.応用（開発・報告できる）									
Ⅳ.支援（教えられる）									

付録:ガイドラインの申込先

国立教育政策研究所

政策研究課題リサーチ経費（2008～2010年度）

『FDプログラムの構築支援とFDerの能力開発に関する研究』(研究代表者: 川島啓二)

fder@nier.go.jp

詳細情報

http://www.nier.go.jp/koutou/projects/fder/index.html